



伐採状況

# 応募者による樹木伐採開始

太田川下流部の河川敷にはヤナギ等の樹木が繁茂しており、洪水時に流れの妨げとなったり、倒れた樹木が下流の橋梁等に引っかけたて洪水をせき上げたりするなど、治水上の問題となるおそれがあります。また、河川巡視の際の妨げにもなり、ゴミの不法投棄を誘発する要因となるなど、河川管理上の障害となることから、太田川河川事務所では計画的に河川内の樹木伐採を行っています。

このたび、木材資源の有効活用と伐採コストの縮減を目的に、伐採を予定していた太田川の河川内樹木を希望者に伐採していただき、その伐木を無償で持ち帰っていただく試みを実施することとしました。

本紙等で行った公募に対して24件の申し込みがあり、高瀬堰下流右岸から伐採が開始されました。

# 「出水期」後の堤防点検を実施

出水期間中に損傷等が生じていないかを確認

太田川河川事務所では、6月11日から10月25日までを太田川の「出水期」と定めて、事前に堤防点検を行うなど大雨や暴風による被害に対する警戒を特に強めています。また、出水期後にも堤防の変状の有無を確認する点検を実施しており、今年は11月5日に完了しました。

点検は、太田川河川事務所職員により、太田川、旧太田川、天満川、元安川、三篠川、根谷川、古川、滝山川及び小瀬川（国管理区間）について実施しました。

点検の結果、法崩れ（のりくず）（堤防の斜面がくずれること）や吸い出し（浸透水が堤防内の土砂類を吸い出すこと）による空洞化など、何らかの措置が必要と判断した箇所については、速やかに処置を行います。

また、台風等の出水が予想される場合には、積み土のう、りくうもん陸閘門、工事看板などの応急点検を実施し、災害の未然防止を図っています。

出水期後点検



台風18号の応急点検状況



陸閘門点検



積み土のう点検

# 旧太田川で河川清掃活動

## 広島市内水面漁協が実施

11月10日、旧太田川・元安川などの市内派川において、広島市内水面漁業協同組合主催の河川清掃が行われ、太



田川河川事務所  
の職員も参加し  
ました。

漁船20隻・組  
合員35名によって  
朝8時から行っ  
た河川清掃で回  
収したごみの総  
量は約12トンに  
もおよび、バイク  
のエンジンや自転  
車2台のほか発  
泡スチロール類等  
のゴミが数多く  
ありました。

今後も市民の  
皆さんの協力を  
得ながらゴミのな  
い太田川をめざ  
していきたいと思  
いますが、何より  
も大切なのは「みんなの川を大切に  
決して汚さない」という、一人ひとりの気  
持ちです。ご協力をお願いいたします。

太田川の市内派川では、多くの不法  
係留船・係留施設が放置され、洪水時  
の流下阻害等の治水上の支障のほか、  
橋や堤防の損傷、油流  
出事故や景観の悪化な  
ど、さまざまな社会問  
題を生じています。

このため、太田川河川  
事務所は、11月17日・18  
日に天満川右岸入り江  
に長期にわたって不法に  
係留されている所有者  
不明の船舶10隻・係留  
施設34箇所を強制撤去  
を行う「簡易代執行」を  
実施しました。

これらの船舶・施設は  
再三の現地告知にもか  
かわらず移動の意思の  
表明もなく、事態の改  
善は見込めない状況で  
あり、やむを得ず撤去す  
ることとしました。

所有者不明の沈船や



## 簡易代執行実施

# 長期不法係留船舶を撤去

# 「小瀬川水質事故対策訓練」を実施

関係機関が協力～水質事故発生時の迅速で効果的な対応をめざして



11月4日に大竹市立木野小学校前の小瀬川河川敷で小瀬川水質保全連絡協議会主催の水質事故対策訓練を実施し、小瀬川水質保全連絡協議会および太田川水質汚濁防止連絡協議会の関係機関から約80名が参加しました。

この訓練は、実際の水質事故発生時に関係機関が迅速に対応に取りかかれ

るよう、必要な対策や調査の方法について再確認を

していただくことを目的に実施しています。

今回の訓練では、吸着マツトやオイルフェンスについての講習と実技、簡易水質分析器具による化学的酸素要求量(COD)・溶存酸素量(DO)・六価クロムの測定や留意事項等について講習を行いました。

## 「広島西部山系植生図鑑」その1 アカマツ

科名:マツ タイプ:常緑高木



土砂災害にあわないための第一歩が、普段から家の周辺の山の状況を知っておくことです。しかし、近年、山と人との生活上の結びつきは希薄となり、脚は山から遠のくばかりです。そこで、防災意識向上のきっかけづくりとして、この地域で代表的な植物の紹介をします。

まずはアカマツです。大きいもので30mにもなる針葉の高木です。広島の山を代表する樹木で、1980年代

から2004年にかけて改変された土地の中で、水田畑地雑草群落に次いで面積が大きいのがアカマツ林だそうです。これは新たな住宅地では、あまり意識せずとも、すぐ裏山にアカマツ林が接していることが多いことを示しています。

近年はマツ枯れがひどく、特に瀬戸内側の低海拔域では大きな被害を受けています。

ホームページに「広島西部山系植生図鑑」を掲載しています

太田川河川事務所

検索

